



東北大学グローバルCOE

Network Medicine

創生拠点

NM高等教育セミナー

早稲田 嘉夫博士

(東北大学多元物質科学研究所・名誉教授)

東北放射光施設構想の概要

2012年10月29日(月) 17時-18時
加齢医学研究所SA棟国際会議室

2011年3月11日に起こった東日本大震災からの復旧は、まだ収束からは程遠い状況です。とくに福島原発事故の影響を受けておられる方々にとっては、つらい日々だと思います。一方、被災状況が比較的軽微であった大学等の公的機関に所属する有志によって、「大震災からの復興を含め東北地方全体のため、かつ基礎的な科学技術に基づく構想」の検討が開始されました。その結果が、2011年12月に基本案がまとまった「東北放射光施設構想」です。この計画内容については、日本放射光学会の「放射光将来計画特別委員会」で議論頂いて、「本計画は地域振興・産業利用を包含し、多数のユーザーの要望を満たす極めて優れた光源計画であると評価し、学会として強く支援する」等の内容で、「中間まとめ」をホームページ上に掲載頂くことができました。詳細は、日本放射光学会ホームページ<http://www.jssrr.jp/>、Topics「放射光将来計画特別委員会の設置について」の欄で、5月12日の公開シンポジウムで提供された関連資料と共に、ご覧ください。

本構想は、東北地方にある7つの国立大学が連携して、復興とイノベーションの両立性を維持しつつ、東北全体の求心力となり得る「省エネルギー・イノベーション型の中型(3-GeV)高輝度放射光施設(略称:東北放射光施設)」を整備

する新規の計画です。しかも、本構想は、SPRING-8/SACLAで開発された、Cバンド加速器、真空封止アンジュレータ等の独自の最新技術を活用することによって、海外で整備が先行している中型リング光源の光源性能に、約2年の建設期間で追いつくことを目指す、チャレンジングなものです。また、①東北地方及びその周辺地域での産業復興と産業強化・発展等を強力に支援する東北の拠点形成、②将来の東南海沖地震等にも備える我が国の科学技術上のリスク管理の視点に立つことが特徴でもあります。(関連HP:
<http://www.mech.hirosaki-u.ac.jp/~furuya/SRSite/>)

東日本大震災により、はからずも東北地域が工業製品の重要部品の全国的・世界的サプライヤーとして機能していることも明らかになりました。このことから、東北放射光施設構想は「基礎科学と産業応用の密接な連携」に裏打ちされた独創性豊かな産業の着実な発展を目指すことが、重要だと思います。東北放射光施設構想の実現により、全国的かつアジア圏を含む広い視野に立つ「放射光コミュニティの拡大・発展」が期待できるでしょう。構想の主旨をご理解いただいて、ご支援をお願いします。講演では、構想の現況・求められる事項等を紹介する予定です。

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知 / 世話人 佐竹 正延 (加齢医学研究所免疫遺伝子制御研究分野)
問い合わせ先: 内線8481